



十年後も
ペットボトルの水
が飲みたい

ペットボトルの水とは…

ペットボトルの水というと“ミネラルウォーター”だと思われがちですがミネラルウォーターには4つの種類があり、

- ・ナチュラルミネラルウォーター
- ・ナチュラルウォーター
- ・ミネラルウォーター
- ・ボトルドウォーター

で、ペットボトルの水はナチュラルミネラルウォーターに分類されます。

ナチュラルミネラルウォーター

ナチュラルミネラルウォーターとは、
特定の水源地から採水されたもので
岩石や地層からカルシウムやマグネシウムなどの
ミネラル成分が溶解した地下水のことです。

地下水ができるまでの過程

- 1,海から蒸発した水が雲となり、山に雨や雪を降らせませす。
- 2,雨や雪解け水は山に降り注ぎ、森の土にしみ込みます。
- 3,地中の奥深くに浸透していく時に水はろ過されます。
- 4,幾重もの地層に磨かれるうちに天然のミネラルが溶け込み、地下水ができます。

しかし、地下水になるまでにはおよそ20年以上かかります。

地下水が採水される場所

ペットボトルのラベルに書かれている場所＝

地下水の採水される場所になり、

主に岐阜県や長野県が多いです。

日本アルプスや富士山などの山脈や山から近く、

川が近くで流れているという所が共通点として挙げられます。

地下水の減少

ペットボトルの水で現在問題になっているのが
地下水の減少です。

「地下水の減少」を端的に説明すると、
ナチュラルミネラルウォーター（地下水）が採水される場所に
必要な量がたまっていないためペットボトルの水として
販売出来る量が少なくなっているということです。

地下水の減少 原因

「地下水の減少」の原因として3つ挙げられます。

1つ目，地球温暖化での気温の上昇により、降雪量が減少し春先から夏にかけての雪解け水が減っていること。

2つ目，森林資源の減少による山地の保水力の低下で、大雨などで土砂崩れが起きやすくなり、地下にしみこむ雨水が減少していること。

3つ目，地下水を採水し過ぎていること。

地下水は昔からよく採水されていたのではなく、東日本大震災の際に非常用として使われたペットボトルの水が人々の評価を得たことや水道水には体に良くないものが含まれているという話が一時期広がったことなどをきっかけに供給が増えていきました。そして、現在ではペットボトルの水を飲むことが日常茶飯事になってしまっているため、地下水の採水される量と供給が比例していません。

地下水の減少 対策①

「地下水の減少」を抑止するための対策。

1つ目，地球温暖化を防ぐために温室効果ガスを出さないこと。そのために世界では温暖化防止会議が毎年開催されて話し合いが行われています。私たちが個人的に出来ることは、エアコンの設定温度を夏は28℃，冬は20℃までにすることや使わない電化製品のプラグをコンセントから抜くことなどで省エネルギーに取り組むことです。

2つ目，森林減少を防ぐために森林の保全活動に参加したり、古紙回収に協力したりすることで森林伐採の抑止につながります。

地下水の減少 対策②

3つ目、地下水の採水し過ぎへの対策は全国各地で行われていて、

- ・熊本県では、地下水の人工かん養が行われています。
“かん養”という名の水田に水を大量に浸透させ、地下水を作る働きです。

- ・長崎県では、地下水を貯留する地下ダムが設置されています。

他にも、

山形県では、ため池等の底面から地下浸透させる方法や駐車場等の雨水をその敷地内においてろ過し、地下浸透しやすい地層まで導き、効率良く大地に浸透させて地下水の増加に努めています。

まとめ

「ペットボトルの水」のことについて調べて、今の私達はペットボトルの水を当たり前のように飲んでいるけれど、**ペットボトルの水＝地下水**ということを知りました。また、その地下水が足りなくなっていることも調べたことで知りました。

地下水の減少を抑えるための対策として、私達にも出来ることを行っていきたいです。そして、震災などの本当にペットボトルの水が必要になった時に、必要な分を用意できるようにしたいと思いました。

地下水の減少の原因として、他にも国際的な土地の買収や地下水の法律が日本では作られていないことなどがあるので、そちらにも目を向けて考えていかなくてはならないと思いました。